

保育者のドキュメンテーションに対する考えに関するインタビュー調査

—テキストマイニング分析を通して—

Text mining analysis of kindergarten teachers' thoughts on documentation

高丘有季乃, 湯地 宏樹

TAKAOKA Yukino and YUJI Hiroki

鳴門教育大学学校教育研究紀要

第 36 号

Bulletin of Center for Collaboration in Community

Naruto University of Education

No.36, Feb, 2022

保育者のドキュメンテーションに対する考えに関するインタビュー調査 —テキストマイニング分析を通して—

Text mining analysis of kindergarten teachers' thoughts on documentation

高丘有季乃*, 湯地 宏樹**

*〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地 鳴門教育大学大学院

**〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地 鳴門教育大学 学校教育研究科
TAKAOKA Yukino* and YUJI Hiroki**

*Naruto University of Education, Graduate School
748 Nakajima, Naruto-cho, Naruto-shi, 772-8502, Japan

**Naruto University of Education
748 Nakajima, Naruto-cho, Naruto-shi, 772-8502, Japan

抄録：保育においては、子どもの評価のためにドキュメンテーションなどの記録をとることが求められている。本研究は、保育者にインタビュー調査を行い、テキストマイニング分析によって、保育者のドキュメンテーションや子どもの評価に対する考えの特徴を明らかにするものである。インタビューのデータを KH Coder を用いて分析した結果、階層的クラスターによって 10 個の特徴に分類された。子どもの姿の振り返りの手立てとして記録を工夫していること、家庭との連携や小学校の先生との共有手段としていることなどが明らかになった。これらの結果を踏まえ、保育現場で有効なドキュメンテーションの開発に役立てたい。

キーワード：ドキュメンテーション, テキストマイニング, KH Coder

Abstract : Kindergarten teachers in Japan have been mandated to record their evaluations of their students. This study conducts an interview survey with kindergarten teachers to investigate their thoughts on the documentation in early childhood education and classify the teacher's thoughts using text mining analysis. Data analysis was performed using the KH Coder, and teacher characteristics were classified into 10 clusters. We found that the teachers used the documentation for the reflection and evaluation of early childhood education and care. They also shared the documentation with the parents and elementary school teachers of their students. Based on the results of this research, we would like to aim for the development of effective documentation.

Keywords : documentation, text mining analysis, KH Coder

I 研究の目的

本研究の目的は、保育者にインタビュー調査を行い、テキストマイニング分析によって、保育者のドキュメンテーションや子どもの評価に対する考えの特徴を明らかにしようとするものである。

本研究の背景としては、中央教育審議会（2016）の答申において「日々の記録や、実践を写真や動画などに残し可視化したいいわゆる「ドキュメンテーション」、ポートフォリオなどにより、幼児の評価の参考となる情報を日頃から蓄積するとともに、このような幼児の発達の状況を保護者と共有することを通じて、幼稚園等と家庭が一体となって幼児と関わる取組を進めていくことが大切である」ことが示されたことによる。

本研究では、中央教育審議会の定義を踏まえ、「日々の記録や、実践を写真や動画などに残し可視化した」ものすべてを「ドキュメンテーション (documentation)」とする。子どもの記録や保育記録、写真やブログ、保護者に対して写真などで子どもの様子を伝える掲示物もすべて含む。ドキュメンテーションは決して新しいものではなく、古くから日本でも行われてきたものである。一人一人の学びの物語や軌跡を残し、ドキュメンテーションやポートフォリオとしての写真や動画による情報の積極的な利用が再確認されたといえるだろう。

近年、日本でドキュメンテーションが注目されている背景には、世界でも革新的といわれるニュージーランドやイタリアのレッジョ・エミリア市の幼児教育などにおけるドキュメンテーションの影響が強いだらう。ニュー

ジールランドの「学びの物語（ラーニング・ストーリー）」は、テ・ファリキの5つの要素5つの学習の性質を示したフォーマットに、子どもたちの活動や作品の写真を入れ、保育の過程や子どもの言動を記述するもので、新たなアセスメントとなりうる（大宮、2010）。スウェーデンでも「教育的ドキュメンテーション」という評価方法がある（大野歩、2016；白石、2018）。これらのドキュメンテーションは、教師や保護者が子どもを理解するための評価として用いられていることが多い。

ドキュメンテーションは、園内研究会や保育カンファレンスにおいて保育者間で共有するだけでなく、保護者と共有する試みもある。岩田・大豆生田（2019）は、「保護者と「おもしろさ」を発見し、共に味わうためにはやはりドキュメンテーションが大きな役割を果たしていた」と述べている。

幼小連携・接続のツールとしてもドキュメンテーションが有効であろう。子どもの理解や保育の振り返りと同時に、一人一人の育ちを小学校へつなげるための資料として重要であるからである。以前の幼稚園幼児指導要録には評定欄があり、「たいてい・ときどき・まれに」（昭和26年通知）など3段階の達成度尺度による相対評価となっていた（野村・神長、1992）が、平成2年通知から評定欄がなくなり、平成21年通知になると、発達の状況欄がなくなり、「指導上参考となる事項」となった。このように数量的な評価から文脈的な評価に変化し、同じ幼児教育を受けた子どもがその育ちつつある姿を同じ視点で小学校に引き継ぐことが大切であるという認識をもつ必要性が出てきたのである（神長、2019）。

このようにドキュメンテーションは、幼稚園幼児指導要録とともに小学校の教師との意見交換の場でも活躍することが期待される。幼稚園教育要領や学習指導要領等に示されたとおり、保育者と小学校の教師との間で「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、連携を図ることが求められている。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、『幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）』において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿（参考例）」としてはじめて示されたものである。これらはOECD国際レポートの社会情動的スキルを踏まえつつ、新たな幼児期の子どもの姿を捉える枠組みとして打ち出されたものと考えられる。これは、幼小の学びの連続性を確保するための「共通言語」になることが期待され、あくまで5領域の中から選ばれたテーマである（汐見、2017）といわれている。

ドキュメンテーションにおける写真や動画などの役割も大きい。デジタルカメラやビデオカメラの普及により、保育への活用も以前より増えたと考えられるからである。佐藤（1992）はカメラ（写真機とビデオカメラを含

む）で撮った一枚の写真は「数万語を費やして書かれた文章よりもはるかに雄弁であり、また豊かな情報を与えることがある」「現場にいるような臨場感を与えるうえできわめて有効な手段」と述べている。

ドキュメンテーションの活用に関する先行研究として、岩田・大豆生田（2019）は、「ドキュメンテーションを用いることによって、子どもの姿が見えてくること、そして、それが豊かな実践につながっていく際のヒントを読み解くことが可能である」と述べている。そうしたドキュメンテーションを学生の実習日誌へ導入した場合の意義と課題について検討を行っている（岩田・大豆生田・鈴木・田澤・田甫、2020）。

前田・浅井（2020）は、保育士を対象に半構造化面接を実施し、保護者に保育を伝える場合、保育のどの場面を取り上げるかの困難を課題として挙げている。その一方で、ドキュメンテーションを活用することによって、子どもの声をよく聞くようになり、子ども側に立って考えるようになったことなどと報告している。このように保育にドキュメンテーションを用いることで、子どもの声に耳を傾け、子どもを見る目が養われ、目に見えない子どもの内面を理解しようとするためにも、ドキュメンテーションは有効であると考えられる。

本研究ではこのようなドキュメンテーションに対する保育者の考えに迫っていきたい。保育者がもつドキュメンテーションに対する工夫や考え方の特徴をテキストマイニング分析によって明らかにすることを目的とする。

なお、本研究は、インタビューデータの分析を行うために、樋口耕一（2020）が著作権をもつフリー・ソフトウェア KH Coder3 を用いる。コンピュータを使用するので、データを要約・提示する際に「手作業」を省くことで、分析者のもつ理論や問題意識によるバイアスを明確に排除できる（樋口、2020）というメリットがある。

II 研究の方法

1. 調査時期と調査対象

本調査は、2021年4月と7月に、次の3名の幼稚園教諭にインタビュー調査を実施した。いずれも現在5歳児クラスの担任である。

- 1) A 保育者（幼稚園勤務・経験年数30年）
- 2) B 保育者（幼稚園勤務・経験年数12年）
- 3) C 保育者（幼稚園勤務・経験年数6年）

2. 調査内容

対象者一人につき約30分程度の半構造化面接法によるインタビュー調査を行った。インタビュアーは2名で行い、ICレコーダによって録音した。なお、新型コロナウイルス感染予防に配慮して、A 保育者と B 保育者

はweb会議（Zoom）によって実施した。本人の了解を得て、録画を行った。

質問内容は、以下のとおりである。

- 1) 子どものドキュメンテーションに関して、工夫していることや心がけていることは何ですか。どのような写真を撮られているか、どのようなことを書くようにしているかなど（記録について）。
- 2) 子どものドキュメンテーションに関して、保護者の方や小学校の先生に知ってもらいたいこと、伝えたいことは何ですか（共有について）。
- 3) 子どものドキュメンテーションに関して、むずかしさを感じていることは何ですか（困難さについて）。

3. 分析方法

テキストマイニングの分析には、樋口（2020）が開発したフリー・ソフトウェア KH Coder3 (3.Beta.03i) を用いた。インタビューデータは Microsoft Excel によって作成した。その際に、子ども、子供、こどもの表記を「子ども」に統一したり、「お母さん」を「保護者」に含めたりするなどして自由記述の語句を整理した。

なお、 χ^2 検定は KH Coder3 を用いて行い、残差分析は js-STAR version 8.1.1j によって確かめた。

4. 倫理的配慮

研究の目的、プライバシーの保護、研究成果の公表、協力するか否かは自由意志で決定すること、協力しなくても不利益をうけることはないことなどを口頭によって説明し、「研究協力の同意書」に署名してもらった。

なお、同意書にご署名いただいた後でも断ったり、途中で辞退したりしてもいいと伝えた。辞退したい場合のために、口頭もしくはメールの問い合わせ先を示した「同意撤回書」を渡した。

Ⅲ 結果と考察

1. ドキュメンテーションの全体的な特徴

KH Coder によるテキストマイニングの分析の結果をみていく。例えば、「保護者」は「保護」と「者」に分かれたので、別々に抽出されないように強制抽出語と指定した。他にも「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「資質・能力」「指導要録」「人間関係」を強制抽出語とした。助詞、感動詞などの品詞を除外して、テキストデータを形態素分析したところ、総抽出語数（使用）：11,915 (2,176)、異なり語数（使用）：1,300 (636)、出現回数の平均 3.42（標準偏差 7.28）となった。

これらの抽出語のうち、出現回数が 50 回以上のものは、言う（動詞）77 回、思う（動詞）72 回、子ども（名詞）55 回、写真（名詞）52 回であった。5 回以上出現

した頻出語は 93 語であった。

質問内容「記録について」「共有について」「困難さについて」の 3 つを外部変数として、5 回以上出現した頻出語 93 語に対して対応分析を行った。KH Coder によって対応分析を用いる利点は、分析結果を視覚的に表現ができる（樋口、2020）ことにある。

図 1 は原点から離れた 50 語のみをプロットしている。「記録について」は、写真、撮る、振り返るなどのバブルが大きい。バブルの大きさは出現回数が多いことを示している。写真を撮り、振り返ることなどが多く語られたと解釈できる。このようにみていくと、「共有について」は、保護者、人間関係、機会など、「困難さについて」は、ブログ、課題、難しい、遊ぶなどが語られている。

また原点から離れているほど、それぞれの外部変数の特徴付けている。「共有について」においては、「文章」、「好き」などが原点から離れている。A 保育者、B 保育者とも写真を撮るのが「好き」であり、A 保育者は写真家の著書を多く所蔵しており、次のように語っている。

もうすごい心揺さぶられて、でもこんなもんはカメラマンじゃないから撮れないんですけど、こういうのが撮れるといいなーっていう願いをもって(A 保育者)

「困難さについて」、原点から最も離れているものに「消す」「触る」などがある。A 保育者によれば、写真の名札の名前を一人一人消しているらしい。個人情報への配慮に困難さを感じているのである。

名札はペイント機能でこう、あれが大変なんですよ、名札を塗りつぶしてます。その画像消すことで画像が汚らしくなるんですよね (A 保育者)

また「触る」は、ビオトープのカエルが死んだことについての A 保育者のエピソードによる。次のように、子どもたちと話し合い、「今度からビオトープのカエルを触らんことにしよう」といった子どもの発言への保育者の違和感や葛藤が語られている。

今回ひとつ死んじゃったから触りたいはずなのに、今度からビオトープのカエルを触らんことにしようやと、私がそう言わせた？みたいななんか大人の先読まんじゃない？そう、そうじゃないんでしょう？なんかこれは絶対、大人が絶対かどうかわからんですけど、触りたい気持ちが強いのに、そうっていうのはなぜ？というあたしの心の声です (A 保育者)

「共有について」、原点から最も離れているものに「小学校」「相談」などがある。B 保育者は子どもたちと話

し合うときにも写真を活用している。C 保育者はドキュメンテーションを指導要録に活用していると語っている。

パソコンとプロジェクターを繋いで、ちょっとパワポみたいに (B 保育者)

それを見ながら、あ、こんなことをしたなーっていうのを4月はこの様子だったっていうのは指導要録には書かせてもらいました (C 保育者)

2. ドキュメンテーションのクラスター毎の特徴

抽出語のうち、出現回数が5回以上出現した頻出語93語について、KH Coderによる階層的クラスター分析(Ward法)を行った結果、10のクラスターに分類された(表1)。

クラスター1は、「子ども、自分、見る、書く、考える、使う、出す、振り返る、大きい、捉える、手立て」である。ドキュメンテーションが保育の振り返りや保育の手立てになっていることがうかがえる。これらの語が同時に出現しているC保育者の語りがこのクラスターを特徴付けている。

自分の保育の振り返りをすごくさせてもらって、次どう子どもにかかわっていくかっていう手立て、自分の保育の手立てがすごく考えてやっていけたっていうのがありがたくてこれが基盤にあるので、この子どもの記録をやっていくと子ども目線で書いていけるっていうのがすごく大きかった (C 保育者)

クラスター2は、「言う、思う、先生、記録、保育、伝える、保護者、小学校、一緒、取る、幼稚園、活動、教育、伝わる、大事、意図」である。保護者や小学校の先生との連携におけるドキュメンテーションに関連するクラスターであると考えられる。

保護者自身になかなか伝えられないことが写真を通してとかで伝わるってこともあるんだなって (C 保育者)

クラスター3は、「課題、遊び、遊ぶ、部分、リアルタイム、面白い、生活、指導、具体、考え方、表情、友達」である。「リアルタイム」「指導」「遊び」に関して、B保育者は次のように語っている。

まずその保育中のリアルタイムの保育中に関しては、その月の指導計画の打ち合わせで確認をした「ねらい」とか具体的な内容に基づいてというか、立ち返っ

て、このような姿があるかっていうのは大前提で見ながら、リアルタイムの保育の中での子どもの遊びとか生活の様子で遊び込んでいるとか、友達とのやり取りの中で充実しているか、表情とか言動とか雰囲気、そこで違和感がないか (B 保育者)

クラスター4は、「写真、撮る、持つ、多い、機会、見せる、状況、残す、指導要録、カメラ」と、写真やカメラに関連する語が集まっている。次のようにC保育者は、写真を撮ることを忘れるほど、子ども理解のためによく観察したり、子どもと真剣に向き合ったりしている。

なんか記録取ってて、やっぱり真剣に、あー集中してるなと思ってると自分があーどこに集中してるんだろうなーとかってすごい見るのでなんかあってこうこの子が考えて今これ取ったなとかと考えると、写真を撮るタイミングがなくてそこが一番の、あー！一番撮りたい写真がなかったとか (C 保育者)

クラスター5は、「意識、ピックアップ、写る、人間関係」である。次のB保育者の語りに、このクラスターに関連する語が同時に出現している。

保護者に伝える時はあんまり近すぎたら2、3人しか写ってなくて、人間関係的にはちょっとピックアップし過ぎなので、ちょっと引きで取ろうかなとか、もうちょっと大人数が写ってるような状況で撮ろうかな、とかは、そんなのは自分は意識するようにしてます (B 保育者)

クラスター6は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、資質・能力、イメージ、ミーティング」である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「資質・能力」に関して、B保育者やC保育者は次のように語っている。

「資質・能力」の文言をすごくイメージしながらと言うか、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の方の文言をイメージする方が多い (B 保育者)

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が入ってきて、いろんな視点っていうところが見ていかなきゃいけないっていうのを思っていたので、ドキュメンテーションにも人間関係ばかりじゃなく心情面ばかりじゃなく、あの技術のほうとかっていうのも書いていけるようになっていうのは意識しました (C 保育者)

クラスター7は、「出る、クラス、研修、特に、不安、

勉強, 大丈夫」である。次のように, ドキュメンテーション等について夏期の研修で勉強していることが語られている。

いろいろ研修に出させてもらったりして, いろいろな先生方の知見をうかがう中で, 思うのはあと今出てくる資料, 資料とかで, ちょうど夏休みにそういう研修もあって, 今ちょうど勉強している最中というのもあるんですけど (B 保育者)

クラスター 8 は, 「頑張る, 思い, ファイル, 様子, 込める, 家庭, 集中, 相談」である。次のように, ドキュメンテーションを家庭で保護者と共有するものとして捉えている。

保護者の方にこんな頑張っているっていうことを子どもたちも家庭で評価されてほしいなっていうのがあったので, ファイルにして持って帰って共有できたらいい (C 保育者)

クラスター 9 は, 「言葉, 作る, ブログ, 載せる, 画像, 感じ, 入る, 気持ち, 心がける, 本当に, 消す, 触る, 文章」である。次のように, ドキュメンテーションにおける写真と言葉との関係が語られている。

「あっ, ここ」と思うところを漠然とその言葉とか関係なく写真には撮って, 再度改めて撮影した画像を見ながら思い浮かぶ言葉とか, 伝えたい考えが文章として出てきます (A 保育者)

あとまたこれっていう画像の時には, 逆に言葉が邪魔なので, その言葉選びっていうのは画像を壊さないようにする (A 保育者)

なんかこう写真を撮るってなるとすごく私との会話で頑張ってる子もいるじゃないですか, でも止まってしまうのでなんか身構えてしまうとブツってこう集中が切れてしまうんじゃないかな, 写真を撮ることって思ってしまうので何かそこを出すのをすごく躊躇して, あのいつもあー撮れなかったっていうことが多いので言葉で, とかっていうことが, 紙で写真なくって言葉だけでっていうこともあった (C 保育者)

クラスター 10 は, 「難しい, 分かる, 好き, つながる, 研究, 置く, 聞く, 成長」である。これらの語のうち, 「つながる」「成長」に関して, 次のように語っている。

子どもの姿を記録で書くときに成長したこと, よさ

と課題を書くんですけど, その時に, 例えば, とくに課題っていうのが次につながる, 次の保育の改善に生かされるポイントになると思うんですけど, できてないとか友達と喧嘩したとかっていうその課題の出来事だけでなく, 何がうまくいかないから話題になってるんだらう? その子の課題がもっと具体的にはどういう状態なんだらうっていうのを言語化したりだとか (B 保育者)

自分からそのなんかこう気づいたというか, 自分がいいなって思うところも伝えてきた子に関しては (ドキュメンテーションを) 取るようにしたり, 子どもたちの成長かな, 成長につながってるのかなと思っていたのを取るようにしてます (C 保育者)

3. 質問内容とクラスターとのクロス集計

これらクラスター分析によって得られた 10 個のクラスターをコーディングルールとして, それぞれの抽出語を割り当てた。コーディングと 3 つの質問内容「記録について」「共有について」「困難さについて」とのクロス集計を行った。図 2 にドキュメンテーションに関するクロス集計のバブルプロットを示した。

χ^2 検定の結果, クラスター 1 ($\chi^2(2)=9.42 p<.01$), クラスター 2 ($\chi^2(2)=15.17 p<.01$), クラスター 4 ($\chi^2(2)=6.84 p<.05$), クラスター 8 ($\chi^2(2)=14.14 p<.01$) に有意差がみられた。残差分析を行ったところ, クラスター 1 は「記録について」(49.0%) が有意に多く, 「困難さについて」(29.6%) が有意に少なかった (それぞれ $p<.05$)。

クラスター 2 は, 「共有について」(70.4%) が有意に多く, 「困難さについて」(41.6%) が有意に少なかった (それぞれ $p<.05$)。クラスター 4 は, 「困難さについて」(16.0%) が有意に少なかった ($p<.05$)。クラスター 8 は, 「共有について」(19.7%) が有意に多く, 「困難さについて」(3.2%) が有意に少なかった (それぞれ $p<.05$)。

すなわち, ドキュメンテーションの保育の振り返りや手立てとしての特徴 (クラスター 1) が「記録について」多く語られ, 家庭や小学校との連携としてのドキュメンテーションの特徴 (クラスター 2, 8) が「共有について」多く語られていることが明らかになった。

IV まとめと今後の課題

KH Coder によるテキストマイニング分析を行ったところ, 出現回数が 5 回以上の頻出語は 93 語あった。この頻出語 93 語に対して, 質問内容「記録について」「共有について」「困難さについて」の特徴による対応分析を試みた。また頻出語 93 語について階層的クラスター

分析を行った結果、10のクラスターに分類された。クラスターをコーディングの指標としてクロス集計を行ったところ、保育の振り返りや手立てや家庭や小学校との連携などドキュメンテーションの特徴が明らかになった。クラスター毎の保育者の語りからドキュメンテーションへの日々の取り組みや工夫、それに対する考えや意識、また苦労していることなどが明らかになった。保育者は、ドキュメンテーションをとおして、子ども理解につとめ、保護者に写真や言葉で子どもの遊びや生活などを伝えるためにいろいろと工夫していた。また保育者の専門的な視点で、保護者に子どもを見取る目や遊びの価値などを伝える役割を担っていた。さらに実際の子どもの姿や思いとのズレを感じながら、保育者の振り返りのために子どもの評価のためにドキュメンテーションを活用していた。

本研究の最終的な目標は、①子どもの発達の状況や子どもの評価を小学校の教員と情報を共有し、指導の参考となるようなドキュメンテーション、②日々の記録をとおして、子どもの発達の状況や子どもの評価を保護者と共有し、幼稚園等と家庭が一体となって子どもと関わるためのドキュメンテーションを開発することである。

そのために3名の保育者のドキュメンテーションに関する考えから多くの学びがあった。テキストマイニング分析による本研究の結果を踏まえ、保育における有効なドキュメンテーションの位置づけのために研究を深めていきたい。

引用文献

- ・中央教育審議会(2016), 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申) https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf (閲覧日 2021年12月1日)
- ・岩田恵子・大豆生田啓友(2019), 保育の可視化へのプロセス, 学術研究所紀要(24), pp.1 - 13
- ・岩田恵子・大豆生田啓友・鈴木美枝子・田澤里喜・田甫綾野(2020), 「ドキュメンテーション型実習日誌」の試みと課題, 玉川大学教育学部紀要(19), pp.125 - 140
- ・樋口耕一(2020), 社会調査のための計量テキスト分析-内容分析の継承と発展を目指して- 第2版 ナカニシヤ出版
- ・神長美津子・阿部和子・大方美香・山下文一(2019), 幼稚園・保育所・認定こども園対応 事例で学ぶ「要録」の描き方ガイド, 中央法規
- ・前田和代・浅井拓久也(2020), 保育におけるドキュ

メンテーション活用に関する一考察: 活用に伴う課題に焦点を当てて, 東京家政大学研究紀要, 60(1), pp.21 - 27

- ・野村睦子・神長美津子(1992), 幼稚園幼児指導要録の解説と記入例, 小学館
- ・大宮勇雄(2016), 学びの物語の保育実践, ひとなる書房
- ・大野歩(2016), スウェーデンにおける保育評価の変容に関する研究-2011年教育改革後の教育学的ドキュメンテーションに着目して-, 保育学研究 52(2), pp.150 - 161
- ・佐藤郁哉(1992), フィールドワーク: 書を持って街へ出よう, 新曜社
- ・汐見稔幸(2017), 2017年告示 新指針・要領からのメッセージ-さあ, 子どもたちの「未来」を話しませんか, 小学館
- ・白石淑江(2018), スウェーデンに学ぶドキュメンテーションの活用: 子どもから出発する保育実践 新評論
- ・幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議(2010), 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告), https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afldfile/2011/11/22/1298955_1_1.pdf (閲覧日 2021年12月1日)

謝辞

本研究はJSPS科研費21K02800の助成を受けたものである。本調査に協力いただいた3名の先生には、お忙しいところ、貴重な時間をいただいた。ドキュメンテーションの語りから、先生方の子どもたちへのあたたかいまなざしや卓越した保育観を感じ取ることができた。多くの学びをいただいたことに、心から感謝申し上げたい。

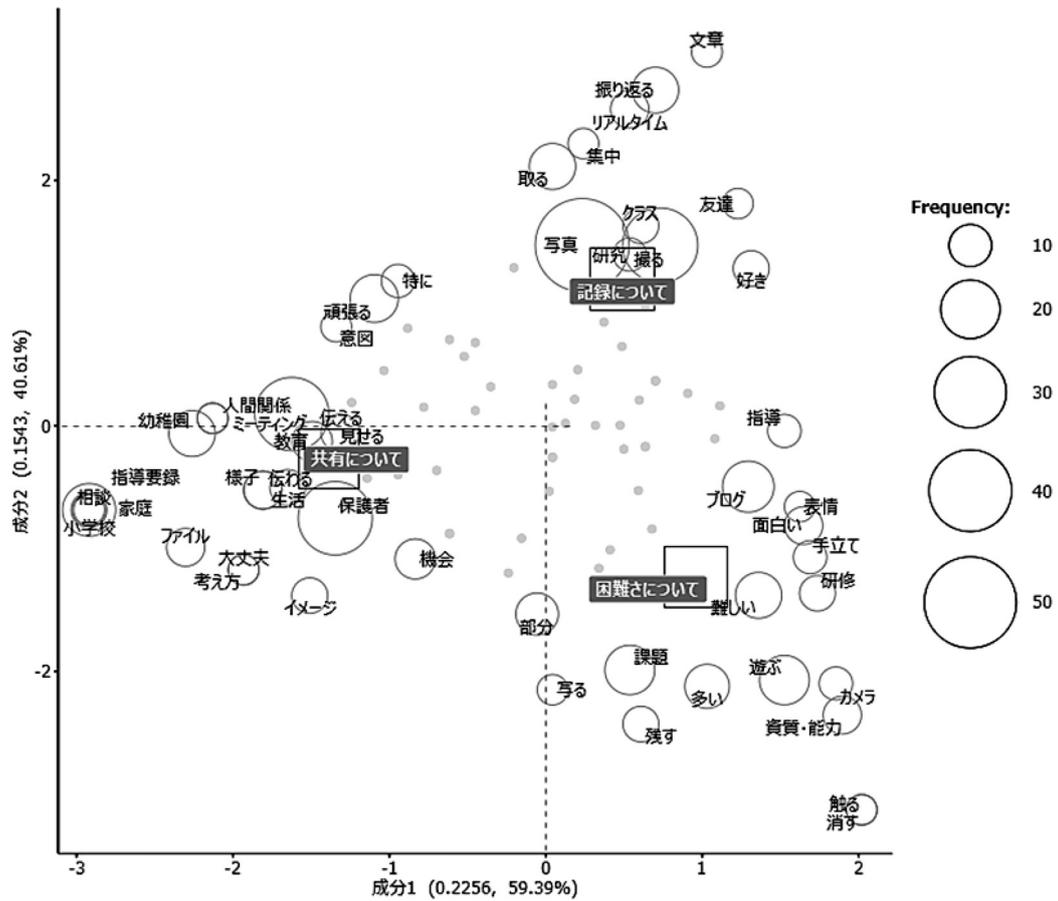
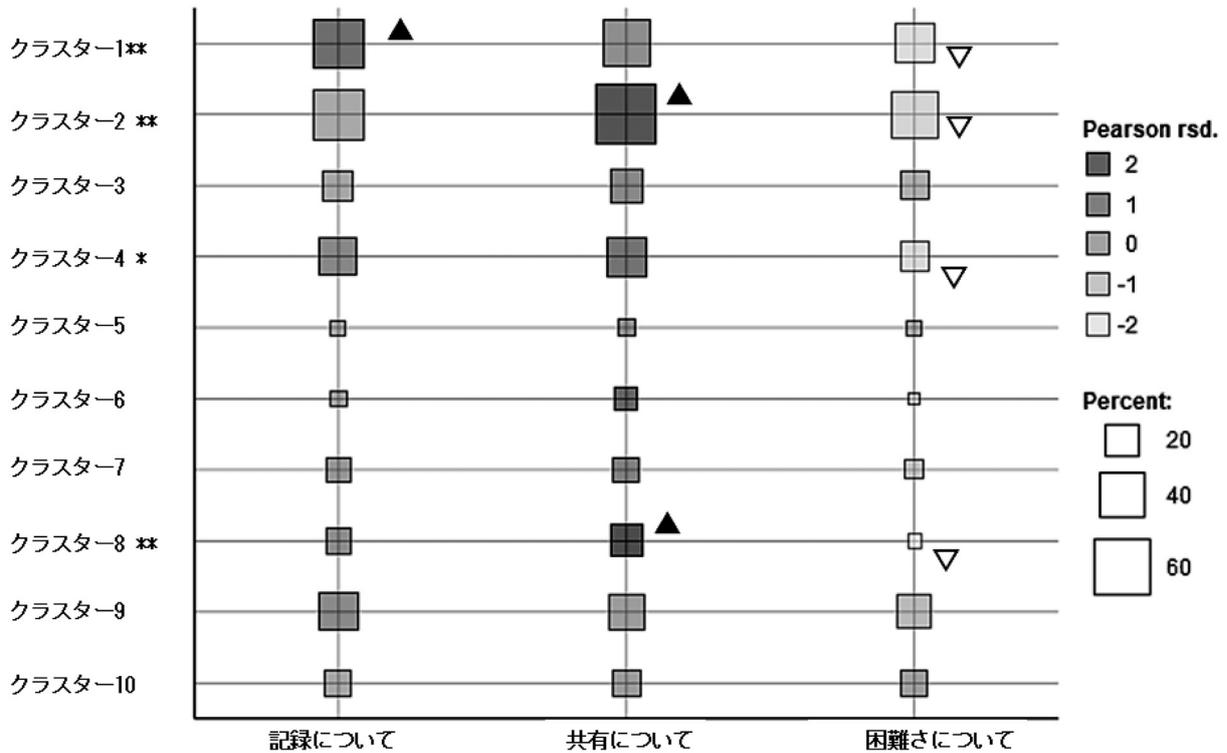


図1 対応分析からみるドキュメンテーションの特徴 (バブルプロット)



* $p < .05$, ** $p < .01$ 残差分析 (▼有意に少ない ▲有意に多い $p < .05$)

図2 ドキュメンテーションに関するクロス集計 (バブルプロット)

表1 インタビュー調査で頻出していた語のクラスター分析（数値は出現回数）

クラスター1		クラスター3		クラスター5		クラスター9	
子ども	55	課題	14	意識	9	言葉	25
自分	49	遊び	14	ピックアップ	5	作る	22
見る	48	遊ぶ	14	写る	5	ブログ	15
書く	36	部分	10	人間関係	5	載せる	13
考える	20	リアルタイム	8			画像	12
使う	16	面白い	8			感じ	12
出す	14	生活	7	クラスター6		入る	10
振り返る	12	指導	6	10の姿*	16	気持ち	7
大きい	10	具体	5	資質・能力	8	心がける	6
捉える	9	考え方	5	イメージ	7	本当に	6
手立て	6	表情	5	ミーティング	5	消す	5
		友達	5			触る	5
クラスター2				クラスター7		文章	5
言う	77	クラスター4		出る	10		
思う	72	写真	52	クラス	7	クラスター10	
先生	46	撮る	33	研修	7	難しい	12
記録	43	持つ	11	特に	6	分かる	10
保育	41	多い	11	不安	6	好き	7
伝える	32	機会	9	勉強	6	つながる	6
保護者	32	見せる	8	大丈夫	5	研究	6
小学校	16	状況	8			置く	6
一緒	12	残す	7	クラスター8		聞く	6
取る	12	指導要録	7	頑張る	13	成長	5
幼稚園	12	カメラ	6	思い	9		
活動	9			ファイル	8		
教育	9			様子	8		
伝わる	8			込める	7		
大事	7			家庭	6		
意図	5			集中	5		
				相談	5		

※ 「10の姿」は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」。